

第1 総 説

1 宝塚市の概要

(1) 位置及び地勢

本市は、兵庫県の南東部に位置し、六甲山系を背に南北に長く、武庫川を挟むように、市街地を形成している南部と農山村地域を形成している北部とに長尾山系で二分されています。南部では西宮市・伊丹市・川西市と、北部では神戸市・三田市・猪名川町とそれぞれ接しています。

南部地域は、北摂連山及び六甲山系の緑に囲まれ、その中央部には武庫川が流れ、北部地域は、周辺各地の開発が進む中で、今なお田園的風景を残しています。

このような立地条件、自然環境に加え、大都市への交通の利便性も高く、阪神間近郊の良好な住宅都市として発展してきました。

また一方、古くから歌劇・温泉の町として知られていますが、日本有数の植木産地であり、中山寺・清荒神などの神社仏閣、畿内文化の幾多の遺跡にも恵まれ、園芸・観光・レクリエーション都市としての性格も有しています。

位置 東経135度21分39秒 北緯34度48分00秒
広ぼう 東西 12.8 k m 南北 21.1 k m
海拔 最高 571.4m 最低 19.1m
面積 101.89 k m²



事 項	年 月 日	合併町村名	面 積 (km ²)	人 口 (人)
市制施行	昭和29年 4月 1日	宝塚町、良元村	28. 3	40,581
編入合併	〃 30年 3月 10日	長尾村	41. 1	52,918
編入合併	〃 30年 3月 14日	西谷村	105. 2	58,809
分 市	〃 30年 4月 1日	長尾村の一部を伊丹市へ分市	101. 75	55,205
境界変更	〃 48年 8月 1日	宝塚市の一部と川西市の一部の境界変更	—	—

(注) 昭和30年誤差修正により101.89km²となる。

(2) 人口等 (住民基本台帳：平成26年4月1日現在)

- 1) 人口 233,842人 (男 109,302人 女 124,540人)
- 2) 世帯 100,652世帯

(各年4月1日現在)

	世帯数	人口	人口密度(人) (km ² 当たり)	人口増加率
昭和35年	18,348	66,491	653	—
40	28,251	91,486	898	37.59%
45	40,610	127,179	1,248	39.01%
50	52,677	162,624	1,596	27.87%
55	58,130	183,628	1,802	12.92%
60	62,586	194,273	1,907	5.80%
平成元年	67,922	201,862	1,981	3.91%
5	70,621	204,099	2,003	1.11%
10	74,856	206,333	2,025	1.09%
15	83,677	217,440	2,134	5.38%
20	92,543	224,708	2,205	3.34%
21	93,956	225,982	2,218	0.56%
22	95,190	227,516	2,233	0.68%
23	96,489	228,726	2,245	0.53%
24	97,671	229,921	2,257	0.52%
25	100,652	233,842	2,295	1.71%

(3) 都市計画区域及び用途地域の面積 (平成24年3月30日最終変更)

- 1) 都市計画地域 10,189ha (市街化地域 2,608ha、市街化調整区域 7,581ha)
- 2) 用途地域

地 域	面 積(ha)	構成比(%)
第1種低層住居専用地域	1,089	41.3
第2種低層住居専用地域	17	0.6
第1種中高層住居専用地域	723	27.4
第2種中高層住居専用地域	245	9.3
第1種住居地域	207	7.9
第2種住居地域	41	1.6
準住居地域	25	1.0
近隣商業地域	67	2.5
商業地域	62	2.4
準工業地域	124	4.7
工業地域	35	1.3
計	2,635	100.0

2 自然環境

(1) 立地

本市は昭和29年、川辺郡宝塚町と武庫郡良元村との合併により誕生し、さらに翌30年に長尾村、西谷村を合併し南北に細長い市域となりました。

市域の3分の2は北摂山地や六甲山系が占めますが、これをさらに、武田尾一切畑―猪名川町猪淵を結ぶ線によって、北側西谷地域と南側の長尾山地域とに分けることができます。

西谷地域は、北端の香合新田の裏山(528m)、南の古宝山(459.5m)のほかは、高さ350m前後の山並みが続く地域で、これらの広い谷間に、香合新田・上佐曾利・下佐曾利・長谷・大原野・波豆・境野・玉瀬・切畑などの集落が点在しています。

長尾山地には、大峰山(552.4m)をはじめ、検見山(475m)・中山(478.2m)など400mを越える山々が続き、この部分では、谷が深い南縁山麓に沿っており、そこには安場・川面・中筋・山本・平井の集落が早くから存在していました。

さらに、有馬―高槻構造線以南の市域も二つに分かれます。一つは武庫川の扇状地に立地する市街地であり、宝塚市の中心的な市街地です。もう一つは六甲山地の東端を占める岩倉山(488.7m)を中心とする花こう岩山地です。逆瀬川流域は丘陵地となっていて宝塚ゴルフクラブがあり、千種地区の台地は小林聖心女子学院を中心とする閑静な文教・住宅区域となっています。台地東麓の平地には、古くから伊子志・小林・蔵人・鹿塩などの集落が、恵まれた自然環境のもとに発展してきました。

(2) 地質

本市は、北摂山地と六甲山地の二つの山地と、武庫平野との出会いの場所です。六甲山地と北摂山地は鋭い線で切られており、これは生瀬から船坂に至る太多田川の断層谷で、蓬莱峡の奇勝はこの谷筋に沿う断層活動による破碎の現れです。この線の延長は直線的に東に伸びて、北摂山地と武庫平野とを分離しています。

(3) 現存植生

本市の自然植生をみると清荒神、満願寺、素盞鳴命神社、宝山寺、中山寺、波豆八幡神社、売布神社などにコジイ―カナメモチ群集、塩尾寺にウラジロガシ―サカキ群集などの照葉樹林(照葉自然林)が残存しています。これらの照葉樹林はかつては宝塚市の全域に広がっていましたが、弥生時代以降の人の土地利用によって破壊され、わずかに社寺林としてのみ残されました。自然植生としては照葉樹林のような気候的極相以外に武庫川などの河川にオギ群集、ツルヨシ群集などや北部の流紋岩地帯のゆるやかな傾斜地に湿原などの土地的極相が点在しています。代表的な湿原としては松尾湿原と丸山湿原があげられます。丸山湿原は生物多様性や規模からみても兵庫県下で有数の湿原です。

自然植生が破壊された後に成立するのが二次植生です。近年まで農耕地を除くと大半は二次植生の里山林に被われていましたが、開発によって里山林は減少しました。現在、里山林は放置され里山放置林に変化しています。その里山放置林も北部では広く分布していますが、南部では山地部に限られています。里山放置林の大半はアカマツ―モチツツジ群集に占められていますが、その多くはマツ枯れの被害を受けており、良好な景観をもつアカマツ林はほとんど見られません。尾根部を中心に広がるアカマツ―モチツツジ群集に対して谷部や斜面

下部にはコナラーアベマキ群集が分布しています。マツ枯れによってアカマツーモチツツジ群集からコナラーアベマキ群集に遷移している林分も増加しました。

(4) 動物

本市の動物の分布状態は、北部の山地を中心に多様な生物が生息していますが、南部の市街地では非常に少なくなっています。

ほ乳類はイノシシ、キツネ、タヌキ、イタチやネズミ類が、鳥類は、約130種が確認されており、このうち、食物連鎖上の上位種となる種は、ハチクマ、サシバやサギ類などが確認されています。両生類はカジカガエル、モリアオガエル、カスミサンショウウオ等が北部を中心に生息しており、昆虫類は、希少な種として、ギフチョウ、オオムラサキ、ハッチョウトンボ、ゲンジボタル、ヘイケボタル、ヒメタイコウチ等が確認されています。

なお、北部地域の里地や南部市街地においても、人家付近にまでアライグマが出没し農作物に被害を及ぼし、また市街地においてもセアカゴケグモなどが出現し、市民生活の安全を脅かすなどしており、ヌートリアを含めた外来生物の生息状況にも注視が必要です。